第３　問題作成部会の見解

地　　理　　Ａ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　学習指導要領の地理Ａ「地球儀や地図からとらえる現代世界」「日常生活と結び付いた地図」「自然環境と防災」の内容を主題とする大問。時差や地理情報システムを活用した地図，ハザードマップなどを取り上げ，複数の資料や地図などから，多面的・多角的に地域の特色を見出すことをねらった。問１は航空機利用を事例とした時差の理解，問２は階級区分図による適切な地図表現方法の判別，問３は等高線データからの地形の読み取りを問うた，自然環境と防災について，問４はハザードマップ整備状況からの地域性の読み取り，問５は防災施設による自然災害の理解，問６自然災害時の避難場所を地図から考える力を問うた６つの小問となっている。学習した成果を活用して上記テーマを考察できるように，単純に資料の読み取り技能を問うのではなく，読み取った様々な情報を多角的に考察させる作業を小問中に含めている。

第２問　本問は，学習指導要領の「⑴ 現代世界の特色と諸課題の地理的考察　イ　世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。衣食住といった基本的な事項に加え，国歌や世界遺産など幅広いテーマを取り上げた。また，これまで出題されていない資料を用いるなど，ユニークな問題になるよう工夫している。問１は，各地域の伝統的住居と自然環境や宗教・文化との関連性を，問２は，各国の国歌の歌詞から，それぞれの国の地理的位置，自然環境，政治体制などを，問３は，各地域で履かれているはきものと自然環境や動植物との関わりを思考させる問いである。問４は，いくつかの国において特徴的に食べられている料理をヒントに，１人１日当たりの食料供給量等を選ばせる問である。問５は，各国の所得や制度から消費支出の割合をイメージさせる問題である。問６は，各世界遺産の地理的偏在とその背景を思考させる問いである。受験者数が極めて少ないことから，平均点等から難易度を評価することはできないが，標準的であったと考えている。

第３問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ　世界の生活・文化の多様性」の地誌的事項に関する大問であり，最終的に「ウ　地球的課題の地理的考察」と結び付けた。具体的には，熱帯を中心とした低緯度における自然環境，生活文化，産業を取り上げ，主題図，グラフ，表，写真などの資料を用いて，多面的・多角的に地域の特色と地域内の多様性を見出す力を問うた。大問の内容としては，自然環境の多様性，食文化，農業・産業の地域性，それを踏まえた地域間格差についての六つの小問で構成している。熱帯という共通した自然環境を持つ地域の中に共通して現れる生活・文化の特徴や地域性，地球的課題にも関連した地域問題を，上記単元で学習した個別地域の内容を横断的に確認し，

様々な地理的技能を組み合わせることで，多様な形式でのデータの読み取りと分析から地域的特色を考察させる作業を小問中に含めた。

第４問　本問は学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ウ　地球的課題の地理的考察」を中心とした大問である。具体的には，石油の確認埋蔵量と可採年数からみた資源の有限性，主要国におけるGDP当たりエネルギー消費量，森林面積の地域別変化，水不足の要因と課題，地域別に見た人口増加率の推移，一人当たりGDPと平均寿命に関する問題を取り上げ，図表やデータの読み取りから，地球的課題を多面的・多角的に考察する力を問うている。人類が直面する様々な危機に対し過度に悲観的な態度に陥ることなく，客観的なデータをもとに地理的事象としての多様性を理解させることをねらいとする。地球的課題に関する大問であるため，課題や問題が生じる背景のみでなく，課題への対策のあり方について考察する内容を含めている。難易度については全般的に平易で，資料や文章量も適切で解きやすい構成であった。

第５問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑵生活圏の諸課題の地理的考察」における「ウ　生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。長野県飯田市を対象として，天竜川やその流域の特徴，地形（傾斜）・人口分布・公共施設の立地，飯田市の地形的特徴（段丘と低地），大火後の市街地の復興，リンゴやキュウリを果樹・野菜栽培，環境モデル都市としての取り組みと森林問題を取り上げ，主題図や地域統計，空中写真，各種写真，地形図などの多様な資料を活用することを通して，自然環境や流域を意識させながら，多面的・多角的に飯田市の特徴を見出す力を問う内容を出題した。高校生が調べうる範囲で，一定の時空間的なスケールを踏まえつつ，様々な観点から飯田市の特徴を浮かび上がらせることを念頭に置き，単純な知識のみではなく，多様な事象について，様々な形式での資料の活用を通して，多面的・多角的に考察できるように心がけた。なお本問は，地理Ａと地理Ｂとの共通問題であるが，特に「地理Ａ」に受験者に不利になったという評価は見られなかった。また，地域的に有利・不利の差は生じなかったと判断される。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　標準的な難易度の設問で構成され，資料から情報を読み取り，知識を基に考察したり，因果関係を論理的に考察したりするなど出題に工夫が感じられるとの評価であった。問１は時差計算問題であり，日常的な素材から作問している点が評価された。問２は，階級区分図の区分や濃淡の適切な利用，統計地図に関する基本的な問題である。日常生活の様々な場面で見かける基本的な統計地図を素材とした出題などが評価された。問３は地図中の地点と見通せる領域とを結びつける形式の問題であり，等高線から地形をイメージする力が問われる良問と評価を得た。問４はハザードマップから災害の種類を問う時宜を得た出題との評価を得た。問５は自然災害に対する備えを写真から読み取る問題である。着眼点が明瞭な良問との評価である。問６は避難経路の読図問題であり，避難時間や標高など読図を含む基本的問題である。災害時の判断力を評価する良問と評価された。全体を通し，出題意図はおおむね的確に伝わっており，防災は今後の地理教育の中でも重要な役割を果たすと考えられ，こうした出題を通じて地理教育の発展に寄与していきたいと考えている。

第２問　これまでに見られないテーマや形式の問題を目指し作成していたが，それに対する好意的な意見が多かった。また，幅広い分野を扱うとともに，分布図，グラフ，文字資料，写真を用い，多面的・多角的に地理的事象を読み取らせようとする姿勢も評価された。問１は，伝統的住居がみられる地域に関する問題であるが，住居の平面図を用いることで，思考力，判断力，

表現力等が問える良問との評価を受けた。問２についても，これまでにはない出題形式であったこと，国家の歌詞から各国の自然的・社会的環境を広く読み取ることができるとの指摘があった。問３は，これまであまり出題されていなかったはきものを題材にしており，写真とキャプションの双方を有効に使って正答を導き出す点が評価された。問４は，料理の写真から三つの国の食生活をイメージしながら食料供給量を問う点が評価された一方で，キャプションのみで回答できるとの指摘もあった。問５は，各国の消費支出について，生活水準や社会保障制度から考察させる点が評価された。問６は，各世界遺産の分布傾向を自然環境や歴史・文化などから総合的に考察する良問との指摘がなされた。全体として多面的な視点から思考力，判断力，表現力等を問うた良問との評価を受けたが，国・地域当てが多かった点には検討の余地がある。

第３問　高校生が熱帯域における生活・文化についてグループ学習で探究するという場面設定となっており，高等学校の授業等でも参考になる好事例であるとの評価を受けた。問１は農業の基本的な考え方を問うており，比較的易しい問題との評価を得た。問２は，地図・グラフ・写真といった複数の資料を読み取る問いで，難易度は適切であるとの評価であった。一方で，写真が小さいために植生の判別が難しいところがあったとの指摘があった。問３は，料理した写真とその食料供給量から地域を推測させる点で工夫されているとの評価を得た。問４は食料増産の背景を問う，工夫された良問であるとの評価を受けた。しかし，サハラ以南アフリカのネリカ米を扱うことはやや詳細な内容ではないかとの指摘もあった。問５は穀物自給率の階級区分図を読み取る問題で，アフリカで輸出される作物の特徴が理解できていれば容易であるとの評価を受けた。問６は，モノカルチャーから多角化への変化は基本的な知識であり，容易な設問という評価であった。全体として，日ごろの教室での学習を想定した出題であり，多様な資料の活用という点で適切であった。２×２の組合せ選択が３問出題された点については，多様な出題形式を心がけていく必要がある。

第４問　地球的課題に関する大問であり，地図やグラフなど様々な資料から読み取ったことを知識と組み合わせて思考力，判断力，表現力等を測る問題で構成しており，SDGsを意識した内容との評価を受けた。問１は，石油の確認埋蔵量と可採年数の年次変化を示した図をもとに資源利用と開発を考察させる小問であり，標準的なレベルの問題という評価であった。問２は，GDP当たり一次エネルギー消費量の背景に関する問題で，平易な問題との評価を受けた。問３は，地域別に示された森林資源の変化に関する小問で，３地域を判別する組合せ問題であった。出題形式および難易度ともに標準的との評価が多かったが，天然林・人工林の判別がやや難しいとの評価もあった。問４は，水不足の要因を考察する問題で，問題解決型の設問については好評であった。他方，SDGsのNo. ６の指標と関連させるような工夫を求める声もあった。問５は，難易度は平易で教科書レベルであるが，大問全体のバランスを考慮すると適切であると評価された。問６は，経済的な発展と国民の健康に関して，グラフの基本的な読み取りではあるものの，経済水準と平均寿命との関係を考察する良問との評価が得られた。大問全体としては，地球的課題の考察としてバランスの取れた問題であったと評価されたが，出題形式については標準的であり，地理的思考力，判断力，表現力等を問う形式としてはさらなる工夫の余地があったといえる。

第５問　全体としては，実際の授業に即した適切な扱われ方であり，図表においてもGISを用いた統計地図の活用や，地理院地図を活用した現地調査資料など，高等学校の授業で実践したい内容であり適切であるという評価を受けた。また資料が多彩に提示された地域調査の問題で，標準的な難易度で構成され，分量も適切な点も評価されている。問１は，地形，気候とバランスよく問いかけている良問であるとの評価を受けた。問２は，小学校の児童数減少や通学に関

する問題を，地形とも関連させつつ問うたが，図を丁寧に読み取って考えれば解答に結び付き，難易度は低かった。問３は，資料から地形の特徴を判断する技能を問い，難易度も標準的であった。問４は，市街地における大規模火災の被害軽減策について想像力を働かせながら考察する良問という評価を受けた。問５は，統計資料を読み取り，野菜や果物の産地と大消費地との位置関係を基に，農産物の生産，流通及び消費について考察する良問との評価を受けた。問６は，高等学校の授業では林業はあまり扱われないが，地域の持続可能性を構想する良問であり，探究のまとめとして最適な扱われ方であるとの評価を受けた。全体として地域調査らしい良問との評価を受けたが，新たな主題形式や図表等の活用も含め，適切な地域調査の問題を追求していくことが必要である。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ａ」の学習内容に概ね合致しており，豊富な地図資料に加え，生徒が作成した資料等を用いた学習プロセスに沿った出題が評価された。また，「場面設定」の問題では，高等学校の授業をイメージした展開になっており，高等学校の授業等でも大いに参考になる好事例であるとの評価であった。資料が精選された中でも，知識・理解をもとにした思考力，判断力，表現力等について十分に問われており，知識偏重とならない工夫された出題がなされている点についても評価された。一方で，単純な図表の読み取りや，前後の文脈で容易に解答に至ることのできる出題も散見されるという指摘も受けた。高等教育への影響を鑑み，また教科書の内容も踏まえ，求められる知識水準の共有化を進めるとともに，知識定着や地理的技能の活用，更に地理的な見方・考え方の応用といった各側面を総合的かつ適切に問えるよう，今後の問題作成でも継続して留意する必要がある。

⑵　難易度については，昨年度と比較すると若干難化したと考えられる。ただ，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からも評価されたように，難易度としては適正であったと考える。今後の問題作成の際にも適正な難易度について十分留意したい。

⑶　出題範囲については，知識の質や思考力，判断力，表現力等，さらにそれらに基づいて将来を構想する問題で構成されており，適切だったと評価された。一方で，資料が豊富に示され，複数の資料を照らし合わせるなどして解答に時間を要する小問があることについても指摘がなされた。地図・主題図・模式図・写真を活用した出題や，それらと図表を組み合わせた出題については，出題意図の伝達や情報の読み取りやすさも含め，今後も重要課題として検討したい。

⑷　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であるとの評価を受けた。今後も，作業的，体験的な学習を通じて地理的な技能や思考力，判断力，表現力等を養うことを重視する「地理Ａ」の内容に即した問題作成を継続していきたい。

地　理　B

1　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2　各問題の出題意図と解答結果

第１問　本問は，学習指導要領⑵「現代世界の系統地理的考察」における「ア　自然環境」に関する大問である。中問Ａは気候と植生景観，土壌，湖沼の特徴との関係を，中問Ｂは，海岸を題材に取り上げ，過去の気候変動にともなう海岸の変化とその地形的特徴や現象の理解，人為改変と海岸環境の変化，津波災害と地形との関係について，図，写真などの資料から，自然環境の特色に基づいて空間軸と時間軸を踏まえ多面的・多角的に考察する力をみることを目的としている。中問Ａは緯度方向における気候要素の違いが気候，土壌，植生，湖沼環境に与える影響の特性に関する三つの小問で，中問Ｂは，氷河性海面変動に伴う海岸線の変化と地形との関わり，人為改変と海岸環境の変化，津波災害と海岸地形の関係に関する三つの小問で構成している。「⑴様々な地図と地理的技能」で学習した成果を活用して上記のテーマを考察できるように，単純な知識を問うのではなく，図やデータの読み取りと分析から自然環境の時期的，地域的特色を思考，考察させる作業を小問中に含め，受験者が持っている基礎的・基本的な知識や概念を，様々な図や写真の読み取りに応用できるかを問うた。

第２問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「現代世界の系統地理的考察」における「イ　資源，産業」に関する大問である。出題は製造業に焦点を当てた授業プロセス型の構成となっており，生産拠点の移出国である先進工業国と，受入国の新興工業国の違いに着目して，製造業のグローバル化を理解することを意図している。問１では，自動車製造の海外移転に関する新聞記事などから，製造業のグローバル化の広がりやその背景の理解を問うた。問２は，工業製品の生産国について，製品の労働集約性や当該国の人件費等の水準に関する知識を基に考察する問題である。問３は，製造業のグローバル化の中での日本企業の対応を，製造拠点と販売拠点を想起しながら思考する問いである。問４では，産業３部門別の就業者数の変化を示した三角グラフを基に，それぞれの国の産業構造の変化が考察できるかを問うた。問５は，先進工業国から新興工業国への生産拠点の移動が，知的財産権使用料の収支にどのように表れるかを思考させる問いである。問６は，先進工業国と新興工業国のグローバル化による課題を踏まえ，それぞれにおける具体的な企業の取組みの事例について考察する問題である。難易度は標準的であった。

第３問　学習指導要領「⑵ 現代世界の系統地理的考察」のうち，「ウ　人口，都市・村落」に関する大問である。人口と都市に関する様々なスケールの地理的事象について，グラフや主題図，空中写真など多様な資料を用いて，共通テストで問いたい地理的な思考力，判断力，表現力等を多面的に問うた。問１は，各国の人口密度と人口増加率の推移がどのようなものか場所の特徴を思考させる設問である。問２は，人口千人当たりの死亡数の推移と年齢別人口の関係を，

各国の社会・経済状況と対応づけて考えさせる設問である。問３は，先進国と発展途上国における都市人口と農村人口の推移をグローバルスケールで考えさせる設問である。問４は，世界都市を事例に，世界都市とみなされる都市の変化やその特徴について思考させる設問である。問５は，日本の大都市圏内の世帯構成の地域差について主題図を基に考える設問である。問６は，日本の大都市圏郊外の住宅地の変化を人口ピラミッドと関連する生活環境の関連を考える設問である。問題全体でみれば，難易度は適切であった。

第４問　本大問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑶現代世界の地誌的考察」における，「イ　現代世界の諸地域」に関する大問である。具体的には，ヨーロッパに関する地誌的考察を，自然環境，自然環境と人間活動の相互関係，ヨーロッパの民族や国家間の結びつき，産業・エネルギー施策の変容などの主題を通して，写真や主題図を用いて，地域の特色や多様性を理解する力を測ることを目的とする。大問の内容としては，気候分布，侵食地形とその人間による利用，ヨーロッパ全体の人口特性や経済活動，航空運輸による地域の結びつき，少数言語からみた民族分布の多様性に関する歴史的背景を踏まえた理解，褐炭採掘場閉山前後の土地利用変化からみた産業構造やエネルギー政策の変化を問う小問からなる。問題の構造は，オーソドックスなものから初見の資料を用いたものまで多様であるが，高等学校で必ず学習し試験問題に頻出する事項と，新たに提示された素材を合わせて思考することにより，結論を導く能力を測ることを目的とした。

第５問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑴ 様々な地図と地理的技能」の，主として「イ 地図の活用と地域調査」に関する大問である。長野県飯田市を対象として，天竜川やその流域の特徴，地形（傾斜）・人口分布・公共施設の立地，飯田市の地形的特徴（段丘と低地），大火後の市街地の復興，リンゴやキュウリを果樹・野菜栽培，環境モデル都市としての取り組みと森林問題を取り上げ，主題図や地域統計，空中写真，各種写真，地形図などの多様な資料を活用することを通して，自然環境や流域を意識させながら，多面的・多角的に飯田市の特徴を見出す力を問うている。高校生が調べうる範囲で，一定の時空間的なスケールを踏まえつつ，様々な観点から飯田市の特徴を浮かび上がらせることを念頭に置き，単純な知識のみではなく，多様な事象について，様々な形式での資料の活用を通して，多面的・多角的に考察できるように心がけた。本問は「地理Ａ」との共通問題であるが，特に「地理Ｂ」受験者のほうが有利ということはなく，受験者の地域的な有利・不利の差もみられなかった。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　世界の自然環境と自然災害に関する大問である。図や表から読み取れることと地理的な知識・概念を結び付ける問題が多くみられる一方で，仮説検証や，概念図から考察する問題もあったほうが良く知識を用いず図の読み取りで判断できてしまう問題があったとの指摘を受けた。問１は季節風のメカニズムや海流，気候分布の知識を働かせて考察する問題であり，考えるべき項目が多く，思考やプロセスの整理が必要なやや難しい問題との評価であった。問２は線上の植生と土壌の特徴とを結びつける問題であり，気候と植生の基本的知識を問うものであり，容易な問題との評価であった。問３は世界の湖の水深，塩分濃度について，湖の成因と気候条件から判断する問題である。三つの湖は異なる特徴を持つため，判断が容易との評価であった。問４は気候変動による海進，海退と地形の関係性を問う問題である。比較的容易に判断できるとの評価であった。問５は突堤建設と海岸線の変化について図や表から読み取り，考察する問題である。図表の読み取りと図から思考を働かせて沿岸流の向きを答える問題であるが難易度は易との評価であった。人間活動と地形変化の関係性についてより深く考察すべきと

の指摘を受けた。問６は津波の浸水被害と地形の関係性を問う問題である。地形の知識や概念を用いて浸水被害を考察するプロセスなどの工夫が必要との指摘を受けた。今後さらに工夫し，より思考力，判断力，表現力等を問うことのできる問題作成に努めたい。

第２問　製造業のグローバル化をテーマにした問題であり，製造業を中心とする諸事象について思考力等を働かせながら解答する標準的な難易度の大問であるとの評価を受けた一方，産業の各分野からの出題や，より積極的な地図の活用を望む指摘もあった。問１は，新聞記事やグラフを読み取り，主要自動車生産国における生産台数の変化と，年代によって異なる自動車メーカーの海外進出の要因を考察する良問という評価を受けた。問２は，分布に特徴があり，判定はしやすく標準的な難易度であるという評価であった。問３も，例が提示されており，これを参考にすると判定は容易であり，標準的な難易度であるという評価であった。問４は，それぞれの国の特徴をグラフに照らし合わせれば，組み合わせは判定しやすく，難易度はやや易であるとの評価を受けた。問５は，グローバル化する現代社会で正しい理解が必要な項目が取り上げられている点に評価を得た。問６は，探究の「まとめ」を想定した問題であり，先進工業国と新興工業国の具体的な取組みについて考察する良問という評価を受けた。引き続き思考力，判断力，表現力等を問える作問を検討したい。

第３問　本大問について，多様な資料を読み取る技能と知識を組み合わせて地理的な思考力を問うており，知識・理解と思考・判断のバランスが取れていると評価される一方，探究的な手法がもう一工夫求められるとの指摘もあった。各小問について，問１は，人口密度と人口増加率に関するシンプルな出題で，良問と評価された一方，選定された国によって難易度が変わるとの指摘を受けた。問２は，死亡率と年齢構成の関係について，各国の知識を踏まえて考察する力が求められ，標準的なレベルと評価された。問３は，先進国と発展途上国の都市人口と農村人口の推移を読み取る出題で難易度は低いと評価された。問４は，世界都市に関する出題で資料の示し方が工夫されていたと評価された。問５は，主題図を基に大都市圏内の世帯構成の地域差に関する問題で，良問であると評価された。問６は，大都市圏郊外のニュータウンにおける年齢構成の変化をグラフと文の組み合わせで考察する問題で，工夫された問いと評価された。知識・技能を前提としつつ思考力，判断力，表現力等を問える作問を引き続き検討したい。

第４問　幅広い知識をもとに，多様な主題図や写真を読み取り，多面的・多角的に考察する問題との評価を受けた。問１は，気候を緯度や隔海度など多様な気候因子から考察する問いで，日ごろの学習を測るには適切との評価を受けた。問２は，浸食地形を写真から考察する問題で，難易度は標準的との評価を受けた。キャプションは無くても解答可能との評もあったが，ドリーネ耕作等，受験者には目新しい要素もあり必要と判断した。問３は，三つの階級区分図から，移民の動向や拡大EUの地域格差などに関する理解をもとに，人口分布の傾向性について考察する良問と評価された。問４は，難易度は高いが，空港の旅客数・貨物取扱量の主題図について，位置や空間的相互作用といった重要な地理的な見方・考え方を用いて考察させる，工夫された良問との評価を得た。問５は，少数言語に関する歴史的背景を踏まえた地理学習が意識された問題として評価された。問６は，褐炭採掘場の土地利用図を通して，地域変容の背景や産業遺産の活用・保存などを扱い，学習のヒントとなる問いとして評価された。学習機会の多い地域で受験者は取り組みやすかったという評の一方で，「地理探究」への継承の観点から，地誌においてもストーリー性や課題設定を望む指摘もあり，さらなる検討を加えたい。

第５問　全体としては，実際の授業に即した適切な扱われ方であり，図表においてもGISを用いた統計地図の活用や，地理院地図を活用した現地調査資料など，高等学校の授業で実践したい内容であり適切であるという評価を受けた。また資料が多彩に提示された地域調査の問題で，

標準的な難易度で構成され，分量も適切な点も評価されている。問１は，地形，気候とバランスよく問いかけている良問であるとの評価を受けた。問２は，小学校の児童数減少や通学に関する問題を，地形とも関連させつつ問うたが，図を丁寧に読み取って考えれば難易度は低く，正解率も高かった。問３は，資料から地形の特徴を判断する技能を問い，難易度も標準的であった。問４は，市街地における大規模火災の被害軽減策について想像力を働かせながら考察する良問という評価を受けた。問５は，統計資料を読み取り，野菜や果物の産地と大消費地との位置関係を基に，農産物の生産，流通及び消費について考察する良問との評価を受けた。問６は，高等学校の授業では林業はあまり扱われないが，地域の持続可能性を構想する良問であり，探究のまとめとして最適な扱われ方であるとの評価を受けた。全体として地域調査らしい良問との評価を受けたが，新たな主題形式や図表等の活用も含め，適切な地域調査の問題を追求していくことが必要である。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ｂ」の学習指導要領の目標と内容に沿っており，系統地理の分野や事例として取り上げられる地域についても偏りがないとの評価を得たが，系統地理と地誌の両分野を関連付けた出題はなかったとの指摘があった。また，提示された図表や地図，設問文などを通して考察する出題も多いとの指摘もあった。分野間のバランスや資料・出題形式のバランスのほか，他科目との出題内容の重複に注意しつつ，資料の分量や難易度に配慮しつつ，引き続き問題作成を行っていきたい。

⑵　難易度については，ほぼ適正であったと考える。また，多様で豊富な図や表，資料の提示とともに組合せ選択の問題が解答時間に影響し，高得点を得にくいとの指摘を受けた。「世界史Ｂ」や「日本史Ｂ」との難易度調整にも配慮しつつ，引き続き適正な難易度の問題作成を目指したい。

⑶　地図をはじめ多様ながらも厳選された資料を活用した出題が評価される一方で，資料数の多さやその読み取り難さについて指摘があった。また，写真の判読性の改善やカラー化に関する要望が本年度もなされた。これらの課題について，今後も継続して検討を重ねていく必要がある。

⑷　出題のバランスについては，全体的に高等学校で学習した知識，技能，地理的な思考力，判断力，表現力等を問う出題になっているという評価の一方，比較地誌の出題がなかったことに関する懸念も示された。高等学校での学習場面を想定した資料の活用は，「地理探究」への連続性・継承を考え，引き続き新しい切り口や工夫を検討していきたい。

⑸　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であり，高等学校の学習範囲に沿って，地理の基礎的な学習の達成の程度を，知識の理解の質や思考力，判断力，表現力等を測るバランスの取れた問題と評価されたといえる。次年度以降も，地理的な思考力，判断力，表現力等を多面的かつ多角的に問うことのできる内容で，かつ適切な難易度・分量で出題する努力を継続していきたい。